

令和 7 年 稲作情報 vol.5

※この資料は、令和 7 年 6 月 1 9 日現在の農業登録情報に基づいて作成しています。

※この資料は、県ホームページでも公開しています。

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36250a/inasakugijyutujyohou.html>



南会津農林事務所農業振興普及部	Tel 0241-62-5262
南郷普及所	Tel 0241-72-2243
J A 会津よつば田島営農経済センター	Tel 0241-63-1172
南郷営農経済センター	Tel 0241-72-2554
下郷資材センター	Tel 0241-69-1088
只見資材センター	Tel 0241-84-2214

- 斑点米カメムシ類の適期防除を行いましょう。
- 生育ステージに合わせた水管理を行いましょう。
- 穂肥を行う場合、生育状況から施用時期と施用量を判断しましょう。

1 生育状況

(1) 1 か月予報 (7/5~8/4) 仙台管区气象台発表 (7/3)

期間の前半は、気温がかなり高い状態が続く見込みです。期間の前半は、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。期間の後半は、天気は数日の周期で変わるでしょう。

平均気温は、高い確率 80% です。降水量は、少ない確率 50% です。日照時間は、多い確率 60% です。

(2) 生育状況 (6月 20 日現在)

草丈は平年よりやや短く、茎数は平年より多く推移しています。また葉数は平年より進んでいます。

今後も高温が続く場合、幼穂形成期や出穂期は、平年より早まる可能性があります。

品種名 (場所)	移植日	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (枚)
里山のつづ (下郷町)	5/24 (+1)	25.7 (91%)	228 (134%)	6.8 (+1.0)
ひとめぼれ (南会津町)	5/22 (-1)	32.9 (98%)	249 (105%)	6.7 (+0.4)
コシヒカリ (只見町)	5/15 (-5)	30.7 (98%)	311 (115%)	7.8 (+1.7)

※ 括弧内は平年値 (過去 5 ヶ年平均) との比較を示しています。

◎ 農作業中の熱中症に注意！

県内では毎年 5 月上旬から農作業中の熱中症が発生しています。暑さに体が慣れていない梅雨時期や梅雨明け直後は、特に注意が必要です。



熱中症対策について (県 HP)

2 病害虫対策

(1) 斑点米カメムシ類防除

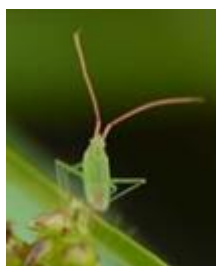
ア 斑点米カメムシ類について

- ・ 斑点米カメムシ類は畦畔や休耕田の雑草に多く生息し、イネの出穂とともに水田へ飛来します。1,000粒に2粒斑点米があると2等に落等してしまいますので、適切な防除を行い、斑点米の発生を防ぎましょう。
- ・ 南会津地域で発生が見られるのは、以下の3種です。



羽根に赤色の
太い縦条がある

アカスジカスミカメ(4～6mm)



赤いヒゲがあり
胴体は細長の淡い緑色

アカヒゲホソミドリカスミカメ(4～6mm)



体色は
茶色

ホソハリカメムシ(約1cm)

イ 耕種的防除（7月）

【畦畔の草刈り】

- ・ イネ科雑草の穂は、斑点米カメムシ類のえさや産卵場所になるので、畦畔や水田周辺の草刈りを徹底して行い、発生密度を減らしましょう。
- ・ 水稻の出穂前後に草刈りを行うと、斑点米カメムシ類を水田に追い込むことになります。草刈りは出穂10日前までに終えましょう。稲の籾が固くなる出穂3週間後までは、草刈りは行わないでください。

【水田内の除草】

水田内のヒエやホタルイ等も、斑点米カメムシ類の生息地になるので、残草した草種に応じて防除を行いましょう。

ウ 薬剤防除（8月）

イネが出穂すると斑点米カメムシは水田に侵入します、特に周囲と比べて出穂が早い水田は、加害が集中しやすいので注意しましょう。薬剤散布は2回行うのが基本となります。

【粉剤及び液剤（散布剤）の場合】

1回目は乳熟期（出穂期の7～10日後、実を潰すと白い汁が出る時期）に、稲の穂にかかるよう散布を行います。その7日後に2回目の散布を行います。

薬剤名	使用時期	使用量 (kg/10a)	本剤の使用回数
キラップ粉剤 DL	収穫 14 日前まで	3～4	2 回以内
スタークル粉剤 DL	収穫 7 日前まで	3	3 回以内
スタークル液剤 10	収穫 7 日前まで	1,000 倍希釈 60～150L	3 回以内

【粒剤（水面施用剤）の場合】

穂揃期（出穂し、穂が揃う頃）に湛水状態の水田へ均一に散布し、7日間は止水管理とします。多発が予想される場合は、1回目の散布の14日後に散布剤による2回目の防除を行います。

薬剤名	使用時期	使用量 (kg/10a)	本剤の使用回数
キラップ粒剤	収穫 14 日前まで	3	2 回以内
スタークル粒剤	収穫 7 日前まで	3	3 回以内

(2) いもち病防除

- ・ いもち病は梅雨時期の低温及び多雨、日照不足により発生しやすくなります。また過剰な窒素肥料の施用は、いもち病の発生を助長します。
- ・ 防除は予防剤の使用が原則です。いもち病が発生した場合は、治療剤で早急に防除しましょう。箱処理剤を使用した場合でも、防除効果は低下しているので、穂いもちの防除は行いましょう。

ア 予防剤例

薬剤名	使用時期	施用量 (kg/10a)	使用方法	本剤の 使用回数
フジワン粒剤	葉いもちに対しては初発 7～10 日前、 穂いもちに対しては出穂 10～30 日前、 (但し、収穫 30 日前まで)	3～5	湛水散布	2 回以内
コラトップ粒剤 5	葉いもちに対しては初発 10 日前～初発時、 穂いもちに対しては出穂 30 日前～5 日前まで	3～4	散布	2 回以内

イ 治療剤例

薬剤名	使用時期	施用量 (kg/10a)	使用方法	本剤の 使用回数
ノンプラス粉剤 DL	収穫 7 日前まで	3～4	散布	2 回以内
ブラシンフロアブル	収穫 7 日前まで	1,000 倍希釈 60～150L	散布	2 回以内

ウ 葉いもちの感染好適条件出現状況 (BLASTAM) について

福島県病害虫防除所 HP にて葉いもちに感染しやすい日の判定結果を掲載していますので、参考としてください。



発生予察情報
(防除所HP)

(3) 稲こうじ病防除

- ・ 稲こうじ病は、穂ばらみ期の低温多雨や窒素過多で発生しやすくなります。
- ・ 昨年発生したほ場や穂ばらみ期に降雨が予想される場合は、出穂前に防除を実施しましょう。

薬剤名	使用時期	施用量 (kg/10a)	使用方法	本剤の 使用回数
モンガリット粒剤	収穫 30 日前まで	3～4	湛水散布	2 回以内
Z ボルドー粉剤 DL	出穂 10 日前まで	3～4	散布	—
フジワン粒剤	出穂 10～30 日前 (但し、収穫 30 日前まで)	3～4	湛水散布	2 回以内

3 クサネム防除

- ・ クサネムは水田や畦畔に発生するマメ科の一年生雑草です。中干し後に、多く発生が見られます。玄米に混入すると、篩いで取り除くことは難しく、落等の原因になります。また茎が硬いことから、コンバイン収穫に支障をきたすことがあります。
- ・ クサネムの発生を確認したら、有効な除草剤の散布や抜き取りを行い、水田から取り除きましょう。

薬剤名	適用雑草	使用時期	施用量(/10a)	使用方法	本剤の使用回数
ノミニー液剤	クサネム	移植後 30 日～ ササ の草丈 40cm まで 但し、収穫 60 日前まで	薬量：50～100mL 希釈水量：100L	落水散布又はごく浅く湛水して散布	1 回
ロイヤント乳剤	一年生広葉雑草及びノビエ、マツバ、ミズガヤツリ、ウリカワ、セリ	移植後 20 日～ノビエ 5 葉期 但し、収穫 45 日前まで	薬量：200mL 希釈水量：25～100L	落水散布、ごく浅く湛水して散布又は湛水散布	2 回以内

4 水管理

(1) 出穂前

- ・ 中干し後に初めて水を入れる際は、根腐れを防止するため走り水程度にし、その後は間断かん水とします。
- ・ 概ね 17℃以下の低温（最低気温）が予想される場合は、不稔の発生を軽減するため、深水管理とし、幼穂を保護しましょう。

(2) 出穂後

- ・ 出穂期の水不足は不稔を招くため、出穂前後 3 日程度は湛水管理とします。その後、間断かん水にて管理します。
- ・ 出穂直後に台風やフェーン現象に遭うと風や乾燥で、不稔や褐変粒が発生するので、深水管理を行いましょう。
- ・ 登熟期間中に高温が続く場合は「飽水管理（田面は湿っており、溝、足跡に水が溜まっている状態）」を行いましょう。
- ・ 早期落水は、乳白粒等の発生による品質低下の要因となるので、落水は出穂後 30 日以降（9 月上旬）を目安に行います。

5 穂肥

葉色などイネの栄養状態から追肥（穂肥）の要否を判断します。なお基肥一発肥料を施用している場合は、極端に葉色が低下している場合を除き、穂肥は必要ありません。

- ・ 穂肥の時期は平均的な株の主茎をカッター等で縦 2 つに割って内部に見えた幼穂の長さから判断しましょう（下表参照）。
- ・ いもち病が発生している場合は、穂肥を控えてください。
- ・ 出穂 5 日前以降の追肥（実肥）は、食味低下の原因になるので行わないでください。

品種名	穂肥時期 (目安※)		葉色 (カラスケール)	窒素施肥量 (kg/10a)	出穂期※ (参考)
里山のつぶ	出穂 25～20 日前(幼穂長：1～2 mm)	7/13～18	4.0 未満	2	8/7
ひとめぼれ	出穂 25～20 日前(幼穂長：1～2 mm)	7/11～16	4.0 未満	2	8/5
コシヒカリ	出穂 15 日前(幼穂長：2～3 cm)	7/25	3.5 未満	1.5～2	8/9

※作況ほの平年値(過去 5 ヶ年平均)による。

◎ 農薬危害防止運動を実施中

福島県では 6 月 10 日から 9 月 10 日まで農薬危害防止運動を実施しています。以下の注意点を確認し、安全かつ適正に農薬を使用しましょう。

- ・ 農薬使用前にラベルを確認し、使用基準及び方法、注意事項の遵守徹底を行う。
- ・ 誤飲を防ぐため、施錠による保管の徹底や適切な防護装備の着用
- ・ 住宅地周辺で使用する際の周辺への配慮、飛散防止対策の徹底

次回発行は 7 月下旬頃(斑点米カメムシ類対策について)を予定